

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年7月3日

【評価実施概要】

事業所番号	874100498		
法人名	有限会社在宅介護サービスきぼう		
事業所名	グループサービス さくら		
所在地	筑西市舟生1079-16 (電話) 0296-37-8280		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成19年12月10日	評価確定日	平成20年7月3日

【情報提供票より】 (平成19年11月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年5月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	8 人	常勤	6 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 6.5 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造		
	2階建ての 1 ~ 2 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	12000 円	その他の経費(月額)	9,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要(平成19年11月25日現在)

利用者人数	8 名	男性	0 名	女性	8 名
要介護1	1	要介護2	1		
要介護3	4	要介護4	2		
要介護5	要支援2				
年齢	平均 84 歳	最低	73 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人杏仁会 大圃病院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは利用者が家庭的な雰囲気の中で、利用者本位のケアを実践出来るよう、運営者と職員が一緒になって取り組んでいる。
また、職員は利用者が人生の先輩であるという尊敬の念を持って支援している。
特に重度化や終末期の対応について、できるだけ早い段階から関係者で十分話し合い検討している。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 外部評価の結果を職員で共有するとともに、課題の改善について検討しているが、改善するまでには至っていないので更なる取り組みを期待する。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価の結果を日々の活動に反映させるよう、申し送り時などに意見交換を行っている。
	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 地域の区長や民生委員、利用者や利用者の家族・管理者を委員とする運営推進会議を同法人のグループホームで開催している。 運営推進会議の意義を踏まえ、当該ホームで会議の委員を選定し、独自の運営推進会議を定期的で開催し、ホームの実情や取り組みなどについて意見を求めるなど、ホームのサービス向上につながる関係づくりを期待する。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族等の意見や不満・苦情は運営者が対応しており、必要に応じ管理者や職員の指導を行っている。 家族等のコミュニケーションを図るため、意見箱や提案帳を設置するなど、「さくら」独自のシステム構築が望まれる。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域での清掃やゴミ拾い、夏祭りなどの地域行事に積極的に参加している。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域社会とのつながりの中で、開設時より「利用者一人ひとりの生活のリズムを大切に自分で出来ることはしていただく」をモットーに、職員全員で確認しケアをしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員採用時に理念を伝えるとともに、事務所に掲示し、朝夕の申し送り時に確認している。	○	運営理念を利用者や家族などに伝えるため、事務所以外のホーム内の見やすく且つ判り易い場所に掲示することを提案する。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域での清掃やごみ拾い・夏祭りなどの地域行事に積極的に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の結果を日々の活動に反映させるよう、申し送り時などに意見交換を行っている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の区長や民生委員、利用者や利用者の家族・管理者を委員とする運営推進会議を同法人のグループホームで開催している。	○	運営推進会議の意義を踏まえ、当該ホームで会議の委員を選定し、会議を運営することが望まれる。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者の介護保険証の更新や生活保護の手続きなどで役所を訪れた際に担当者と面談している。	○	事務手続き上の打ち合わせのみならず、運営推進会議の定期開催、ホームの実情や取り組みなどについて意見を求めるなど、ホームのサービス向上につながる関係づくりを期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用料の請求時に近況報告を行うとともに、容態急変時には随時連絡を取っているが、ホーム便りを発行していない。	○	ホーム便りを発行し、地域へ配布や回覧をするなどして広報・啓発に取り組むことが望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族などの意見や不満・苦情は運営者が対応しており、必要に応じ管理者や職員の指導を行っている。	○	家族等とのコミュニケーションを図るため、意見箱や提案帳を設置するなど、「さくら」独自のシステム構築が望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事業所内での職員の異動はないが、職員が代わる場合は喪失感や混乱が少ないよう、声かけを多くするなどの配慮をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内は随時職員に知らせているが、職員の人員数の関係で特に外部研修などは受講していない。	○	計画的な人員確保に努め外部研修の受講を検討するとともに、内部研修の充実を図ることを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者が定期的に行き来する同業者と情報交換を行っているが、職員が交流するまでには至っていない。	○	市内の同業者による連絡会や勉強会・施設見学などへの出席は運営者のみならず、職員間の交流を図ることを期待する。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者・家族などに入居前にホーム見学などで訪問してもらい、馴染めるよう支援している。 ホームでの生活が自宅での生活と変わらないことを本人や家族に説明している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者が人生の先輩であるという畏敬の念をもって支援している。 職員と利用者が一緒にテレビを見たり、本を読んだり歌を歌うなど、同じ時間を共有できるよう配慮している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症が進んだ利用者が多いため、利用者本人からの訴えがほとんどなく、また、家族と絶縁状態にある利用者があるため、思いや意向等を把握するまでには至っていない。	○	出来るだけ利用者本位の介護が出来るよう、思いや意向を把握することに努めることが望まれる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	基本的な介護計画はケアマネジャーの管理者が作り、それに基づいて本人・家族・職員などの関係者を交えてカンファレンスを行い、介護計画を作成しているが充分とはいえない。	○	利用者や家族から希望や生活歴などを聞き出せない場合は、利用者の日常生活の中での何気ない言葉やしぐさなどから情報を得て、介護計画に反映させることが望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じた見直しを行っている。 また、必要に応じ随時見直しを図っているが充分とはいえない。	○	介護計画書に作成日・実施機関欄を設けるとともに目標に対する達成度を評価し、介護計画に反映することが望まれる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が通院付き添いを出来ない場合などの移送や付き添い、市役所の手続の代行など、家族の要望に対して柔軟に対応している。	○	今後は運営推進会議などで、地域の高齢者の抱える課題やニーズを把握するとともに、ホームの機能を生かせるよう検討することが望まれる。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を入居後も可能な限り受診できるよう配慮している。 また、提携医療機関より往診してもらい対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	大部分の利用者がホームでの終末期対応を望んでおり、症状が重度化する前から関係者で充分話し合い、終末期のあり方について検討している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は利用者の尊厳を第一に考えており、利用者のプライバシーを確保するため、ミーティング等で職員の意識向上に努めるとともに、日々の対応に取り組んでいる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームは認知症の進んだ利用者が多いため利用者本人からの訴えは殆どない。 利用者一人ひとりを尊重した言葉かけを職員全員が徹底している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者の力量に応じて配膳・下膳・後片付けなどを一緒に行っている。 また、職員と利用者が同じテーブルを囲んで食事をしながら見守りをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員の人数の関係上本人・家族と相談して曜日・時間帯は事業所で決めている。 また、入浴するしないは本人に確認をとるが入浴時間の自由な設定はできない。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の昔の事を知らない家族や情報開示を拒否する家族が多いため苦慮しており、利用者一人ひとりの生活歴や言動を見たり聞いたりしての役割・楽しみごと・気晴らしの支援を行っているが、十分とはいえない。	○	ホーム独自の家族会の結成や活性化を図り、ホームと家族の交流促進を図ることを期待する。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの敷地が狭いため、設置法人内の他のグループホームで畑仕事などに出かけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は防犯上の理由から日中・夜間共に施錠しているが、居室はドア・窓共に鍵をかけていない。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自主的に避難訓練を行っているが、徹底するまでには至っていない。	○	火災や地震などホームで起こりうる災害を想定し、消防署・警察・保健センター・町内会自治会などの協力を得て利用者が避難できるよう訓練することが望まれる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに配慮した献立を作成し、調理している。 また、一日に必要な水分量を摂取できるよう働きかけている。	○	管理栄養士などに献立及びカロリー摂取量等について、意見を求めるよう提案する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	手芸品や行事の写真等を掲示して雰囲気づくりをしている。 建物の構造上、リビングルームは2階の北側に位置し日当たりが悪い。	○	入居者同士が団欒できる共有空間を設置することを期待する。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームは認知症の進んだ利用者や病院からの入居が多いため、物を持ち込まないケースが多く、馴染みの小物等を自由に持ち込むよう支援している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。